

に高潮し、多年屈辱の生活にある者泣いて、笑する者あり噫々此時にあたり幹部は營々として組合の基礎工事に従事しつゝあつたのである

第五章 國際労働會議

浦賀に黒船が來航して、國民は迷夢から醒め志士仁人は大義のため血と涙を以て王道を復活した。時は大正八年黒船來航に比すべき國際労働會議は米國華府に於て開かれた永く眠れる労働者は目前の事實に迷夢より目醒め鬱然として天空を掩ふ労働運動の氣運は野火の如き一小團の活動も忽ち燎原を焼き盡くすが如き勢を以て全國を風靡したのである。九月の初め我が大阪鐵工組合に對し國際労働會議に出席すべき本邦労働代表選定協議員一名を選出すべき様農商務内務兩次官の名に依りて依頼し來り、續いて三百名以上の工場に代表委員を選出する様知事の名に依りて發表せられたのである。組合は直ちに協議會を開き組合代表として堂前孫三郎氏を推選し、續いて阪本孝三郎氏は汽車會社代表委員として立候補を宣言し激烈なる選挙戦の結果絶對多數を以て當選し 九月九日大阪府廳に於ける工場委員會に善戦し協議員に當選 九月十二日堂前氏と共に姪々たる労働者の長蛇の陣に送られて意氣軒昂東上し、農商務省に於ける協議會に出席したのである。斯くて堂前阪本兩氏の活動は佐藤塚本宮内川端氏等應援隨行者が大坂の労働者に發したる短文に依つてほど知る事が出来る、即ち第一信十三日堂前阪本氏一行無事入京元氣旺盛神田橋外今城館に投宿直ちに作戦を廻らし戦闘状態に入る 第二信十四日堂前阪本兩氏純労働者として所信を披瀝し愈々白兵戦に入る 第三信十五日都下各新聞悉く我徒の爲めに執筆意氣大いに昂る、夜に入りて各労働団体代表者續々來訪、兩闘士は純労働を標榜して決然陣頭に立つ 第四信十五日午前十時兩氏は農商務省に於ける労働代表選定會に列席、最年少阪本君最も衆目を牽く議論沸騰波瀾重疊形勢混沌たり夜兩氏は築地靜養軒に於ける農相招待晩餐會に臨めり 第五信十六日労働代表選定會第二日議論百出形勢今尙ほ混沌兩氏は純労働者として最善の道に進みつゝあり 第六信十七日一行最善の方策講究に努め兩氏亦健全にして奮闘努力しつゝあるも、不幸矢盡き刀折れ玉となつて碎る